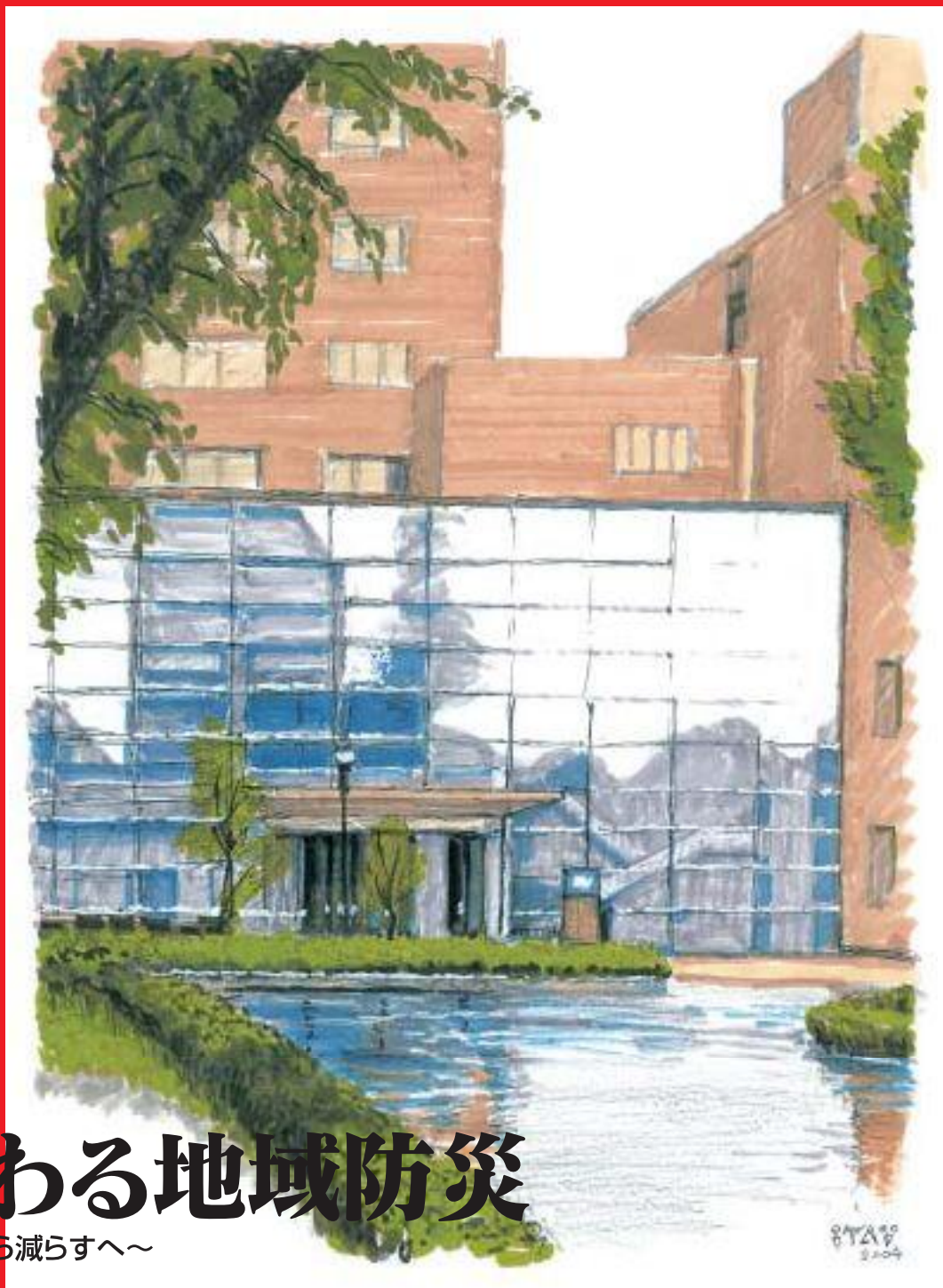


熊大通信

KUMADAI TSUSHIN

Jul.2004

Vol.13



特集

変わる地域防災

～防ぐから減らすへ～

87289
2004



～あなたのための熊本大学～

熊本大学は、4つのことに全力を投入します！

- Upgrade** 未来を生き抜く人材の養成
- Unique** 新たな知的価値の創造
- Union** 地域連携と地域貢献
- Universal** 留学生教育と国際貢献

C O N T E N T S

〈目次〉

変わる 地域防災

知と社会 Vol.13

～防ぐから減らすへ～



P.1

夢の実現

「法律と社会をつなぐ研究者」
熊本大学法学部 教授 吉田 勇



P.6

熊大群像

「地域の子どもたちに届ける生オーケストラ宅配便」
熊本大学フィルハーモニーオーケストラ



P.8

卒業生を訪ねて

「目的をひとつにすれば人類は困難を乗り越えられる。」
(財)国際保健医療交流センター 理事長 蟻田 功さん



P.10

国際交流 ～国際総合大学としての熊本大学～

～海外研修で体感した国際交流～
国際課留学生室 野口 緑



P.12

熊大INFORMATION

P.14

地域 防災

変わる

知
と
社
会

Vol.13

1999年9月24日、台風18号の影響で越水した白川の様子。(熊本市沖新町)

く防ぐから減らすへく

台風、洪水、高潮などの常襲地帯である熊本
今年も警戒シーズンに突入した
大災害の度に問われる防災のあり方
私たちは、過去から何を学べばいいのだろう
人命や財産への被害を少しでも減らす新たな方策は何かがあるのだろう
「防災」をテーマに研究に取り組む 4 人の熊本大学教授を訪ねた
そこからは、これまでの防災の限界と、新たな地域のあり方
そして、これからの大学の役割が見えてくる

大規模土石流災害の問題点を検証

平成15年7月20日、15名の尊い人命を奪った熊本県水俣市の大規模土石流災害から約1年。工学部の北園芳人教授は、この大災害の発生原因などを約8カ月にわたり調査。「水俣土石流災害検討委員会」委員長として、その報告書を熊本県知事に提出した。

「大災害が起きた集川流域は、県の危険渓流のひとつに指定されています。しかし、ふだんは水がチロチロと流れている程度。それが、今回は増

水して川幅が10mにもなり、そこに斜面の崩壊土砂が流れ込み土石流となって、途中で川底から20〜30mも山側まで乗り上げ、下流域で人家を襲いました。増水を目視できた川沿いの住民は早めに避難し難を逃れた人もいましたが、川より高い所に住む住民の中にも犠牲者が出ました。大雨で夜中ということもあり、家の中が安全と判断した人たちです」。長雨で地盤が弛んでいたうえに1時間に90〜100ミリの集中豪雨が重なり、小さな土砂崩れが大きな土砂崩れを誘発。崩壊土砂が谷へ流れ込み、土石流となって川底の土砂も巻き込みながら一気に流れ出たためだという。

「過去100年以上この地域で大規模の土石流は発生していません。同じ規模の土石流が起きた可能性があるのは2万年くらい前」。まさに、予想をはるかに超える大災害だったのだ。北園教授らは、地質調査や現地ヒアリングなどから土石流メカニズムを推定すると共に、それに基づく災害復旧計画の基本方針を示した。

これらハード面と並んで研究者達が特に問題提起したのが、警戒避難体制のあり方だった。県が災害危険情報を出す場合、まず県の出先機関である地域振興局へ、そこから市町村へ、そして、各地域の消防団から住民へと伝えられる。これでは、緊急時の連絡には時間がかかり過ぎる。「もっと正確な情報を直接現地に流せるシステムが必要。たとえば、限ら

れた地域の危険性を時々刻々とインターネットで配信するなどの方法です」。そのためには、雨量のより正確なデータを取るため観測所の数を増やすなど、多くの課題があることも分かった。

そして、もう一つが、それらの情報を基に、いち早く避難活動ができる地域の自主防災組織の必要性だ。北園教授は、「行政が出す危険エリアのハザードマップも、住民がそれを使いこなせてこそ意味がある。災害時にどう逃げるか、高齢者や子どもを誰がどう避難させるか、細かい手順まで地域住民が連携して訓練しておく必要があります」と自主防災の備えを改めて指摘する。

初動対応が二次災害減少の鍵

住民の備えと並んで、災害時にまず求められるのが行政の迅速な対応だろう。「自然災害は起きるのが前提。重要なのは二次災害をどう防ぐか」と、工学部の小林一郎教授は語る。

災害時の危機管理を研究する小林教授が国土交通省と取り組んでいるのは、「自然災害危機管理模擬訓練システム」と呼ばれるもの。大災害が発生すると、国土交通省の地方整備局や事務所では、



Yoshito Kitazono

工学部教授

北園 芳人





Ichiro Kobayashi

工学部教授

小林 一郎

災害対策本部を設置し現地の状況などを把握、さまざまな対策を実施する。この初動対応時の情報収集や指揮、連絡、組織運営、マスコミ対応などを、いかに迅速かつ適確に行うかという訓練だ。

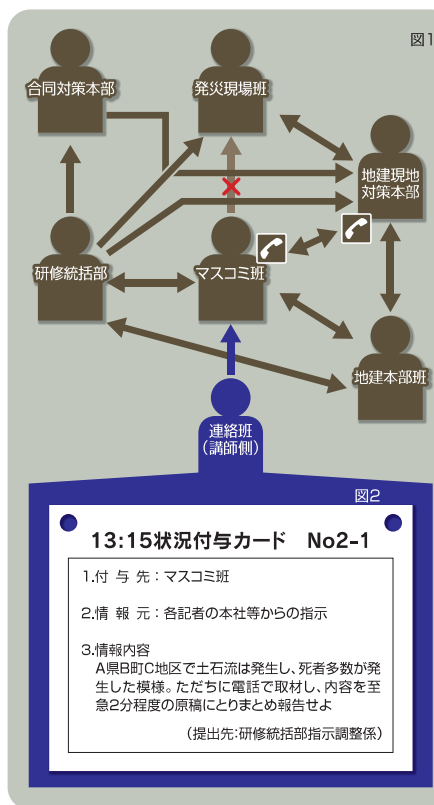
この訓練は、従来の災害マニュアルとは全く違い、実際に具体的な場所や災害を想定、もしくは現実起こった災害(例えば、1997年7月発生の出水市針原地区の土石流災害)をモデルにシナリオを作成し、参加者が、本部長班、発災現場班、合同本部班、マスコミ班などに分かれ、ロールプレイング形式で行われる。

それぞれの班には、現場の状況や気象データ、被害者情報、各方面からの問い合わせなど、錯綜する情報が次々に与えられ、参加者たちがそれを処理していく。そして、その判断や対応が不適切だと講師側から指導が入る。「ひとつひとつの災害



2003年7月20日未明、九州中南部を襲った集中豪雨のため、熊本県水俣市宝川内地区の集川沿いに大規模な土石流が発生し、10棟もの家屋が一瞬のうちに流され、19人の死者・行方不明者を出した。その後の調査により、山腹で崩壊した土砂量は5万~10万立方メートルと推定され、近年稀にみる大規模な土石流であったことがうかがえる。

鹿児島県出水市針原地区土石流災害をモデルにした自然災害危機管理模擬訓練



災害時に実際に指揮をとる人たちが図1のように各班に分かれて訓練を行う。講師側は実際起こった災害をモデルにしたシナリオに沿って、時間を追ってさまざまな情報を「状況付与カード」(図2)を用いて研修生側に提示し、各班はそれぞれに与えられた役割に応じて判断、行動する。実際には予期せぬ出来事が発生する可能性も考えられるため、うその情報を加えるなどして、わざと混乱を体験させることもある。

あなたの判断が30名の命を奪いましたよ」といった緊張感の中でやれば、いぶん上手くなります」。

この訓練の狙いは、①パニックの防止、②現状の正確な把握、③迅速な意思決定、④適切な対応だ。今までは省庁内部の問題で本格的に研究されることのなかったこの訓練システムは、警視庁の事件対策などにも応用されているという。

「日本は、ギリギリの緊迫した状態でどう組織を動かすかという戦略が欠けています。自衛隊や消防の出動を要請するかどうか判断するのに何日もかかるのは、犯罪に近い人災です。緊急時、いかに素早く連絡を取り、組織を立ち上げ、機敏に

は、マニュアルどおりにはいきません。だからこそ本番さながらに集中してやってみることが大切。『今の

適切に対処できるかで助かる人命の数が全く違ってきます」と語る小林教授。現在は国の省庁のみだが、今後は地方でもぜひこの訓練システムを取り入れて欲しいと、新たなシナリオづくりに取り組んでいる。また、地震など予測が困難なさまざまな自然災害への対策にとっては、事前対策とともに、事後対策を整備することが重要な防災政策の考え方となってきた。

ハード、ソフト両面からのリスクマネジメントを

それでは、建物や構造物と防災との関わりはどうなのだろう。原子力発電所の耐震設計や免震構造などの研究を長年手掛けてきた工学部の松田泰治教授は、10年ほど前から社会基盤施設に関わる地震防災・災害リスク・マネジメントの研究に取り組んでいる。

松田教授が現在手掛けているもののひとつに、

橋梁の補強に関する研究がある。全国にある橋は、造られた年代によって構造が似通っている。それを基に、建っている地盤や鉄筋の量、橋脚の形状、損傷の程度などの条件を、ニューラルネットワークという人間の神経細胞のように情報を受け取って判断をくだすソフトにあらかじめ学習させ、それに古い橋に必要なデータを入れ、老朽度を弾き出すという研究だ。

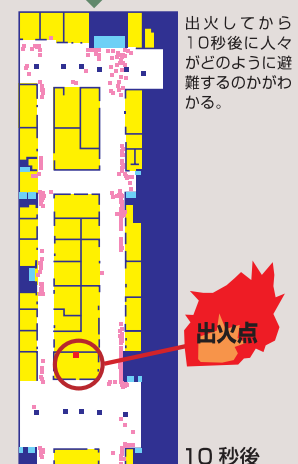
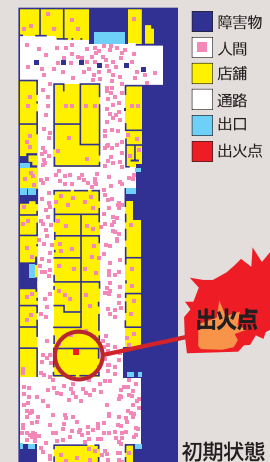
「リスク・マネジメントの立場から言うと、一度造ったものを今の安全レベルとまったく同じにするのは不可能。現実を見据えて、これはぜい弱な構造物ですよということを、まず情報公開すべきです。その上で、あまり効果のない補強工事に税金を使うより、みんなでそのリスクを考えながら使っていく方がずっと合理的」。

また、松田教授は、災害時の群集の避難行動をシミュレーションする研究も進めている。たとえば地下街など不特定多数の人が集まる場所では、避難訓練で安全を確保するだけでは不十分である。そこで、周囲の状況、たとえば壁や出口、周りの人の動きなどの条件を数量化し、人間の動きをセルオートマトンという人工生命技術で解析するという方法だ。「真実じゃないかも知れないけど、人間の頭では予測不可能な最悪の状態もシミュレーションならできます」。従来、根拠が希薄だった建物の非常口、避難誘導灯の数や配置なども、人の動きを考えて割り出すことができる。

これらの研究を重ねる松田教授は、構造物などのハード面だけでなく、それを作る、そして、使う側の意識や手法などソフト面の充実の必要性

福岡市天神地下街見取図を用いた火災発生時の避難シミュレーション

あらかじめ与えられたさまざまな条件をもとに、人がどう動いていくかを調べるシミュレーション。実際避難訓練を行うことができないような場所でのリスク・マネジメントに有効である。



Yasuharu Mazda

工学部教授

松田 泰治

を指摘する。「今までは『お上』が計画して実行するプラン・ドウだけで終わりましたが、最近プランの段階から市民参加型になってきていますよね。これからは、計画、実行、評価、見直しというのを、住民も一体となってやっていくことが大切。社会基盤のあり方全体を、防災だけに限らず、みんなで、どうリスク・マネジメントしていくかを考える必要があると思います」と語る。

地域づくり全体からの発想が必要

また、防災をさらに広い「地域づくり」の視点から考えていくことを、環境・防災・社会計画などの研究やNPOなどの地域活動の中から提唱する

教授もいる。沿岸域環境科学教育研究センターの滝川清教授だ。

滝川教授は、平成11年9月、台風18号によって死者16名を含む大きな被害をもたらした不知火海高潮災害を被災直後から調査、原因究明から復興計画の立案まで中心的に携わってきた。また、一方で、全国的にも注目を集める有明海・不知火海の環境問題にも多くの国や県などの審議会の委員長・委員として長年取り組んで来ている経験から、防災が地域にとって決して独立したテーマではないことを力説する。

「地域の中で、防災だけを切り離して考えることは実状に合いません。私たちは、いかに安全、安心な生活を確保し、周囲の自然環境と調和し、それをどのように利用して暮らしていくか、そのバランスを考えなければなりません。そして、その基準や方策を選択していくのは、地域の人々自身なのです」。

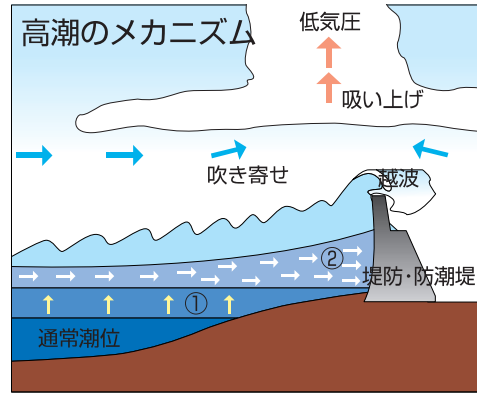
滝川教授は、不知火海高潮災害の調査研究から、全国で初めて『想定最大高潮』に基づく『減災』という考え方を打ち出した。『想定最大高潮』とは、台



Kiyoshi Takikawa

工学部教授

滝川 清



高潮発生の主な要因として以下の2つがある。

①気圧低下による吸い上げ

②風による吹き寄せ

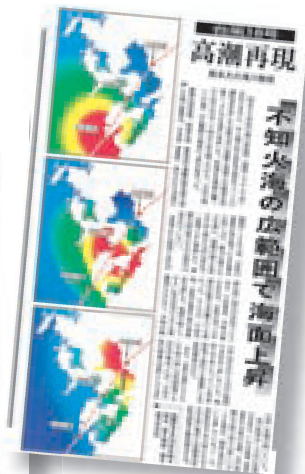
その他に、台風接近に伴う高波浪による海面上昇等がある。

風の進路や規模、満潮時刻など想定しうるあらゆる条件から最大最悪の状態を割り出した高潮のこ
と。「今までの防災は、過去の最大値や百年に1
度といった確率などを基に、構造物でそれを防ぐ
という考え方で成り立っています。しかしこの考
え方は、これを超える災害に襲われた時は、『基
準値を超えていた』という言い訳にもなり得るの
です」。

この『想定最大高潮』は、決して堤防の高さなど



熊本日日新聞 平成12年3月14日



熊本日日新聞 平成11年10月5日

ハード面の基準になるものではない。「何百年に
一度来るか来ないかの災害のために、ものすご
い高さの堤防を立てても、海岸の環境は悪くな
るし、景観も損なわれ海の利用にも不便です。で
は、『想定最大高潮』が襲った場合、現状の堤防で
は何メートル足りないのか。その部分をソフト面
でいかにカバーするのか。それが『減災』の考え方
です」。最大最悪を想定することで、今まで知ら
なかった危険性を住民自身が知り、避難体制や情

報伝達、避難場所の確保などを行政と共に細かく
決めていく、いわゆるフェイルセーフを作ること
ができる。滝川教授が提案したこの方法は、全国
の高潮災害マニュアルの指針ともなっており、熊
本県及び有明海域の海岸保全基本指針として実施
されている。

この『減災』の考え方の基本となるのが、『防災・
安全』『環境保全』『開発利用』の3つの要素から、
地域づくり全体を総合的にとらえる視点だ。「地
域には、それぞれに違った風土や歴史、暮らしな
ど個性があります。それらを含めて『自分達のま
ちは、自分達を守る』という意識を、行政も学者
や技術者も、そして住民のみなさんも持つことが
大切」と、滝川教授は語る。

防災について、さまざまな角度から取り組む4
人の研究者たち。その全員から聞かれたのは「論
文のための研究ではなく、実際に社会で、現場で
役立つ研究でなければ意味がない」という意見だ。
いつ起きるか分からない自然災害を完全に防ぐこ
とは不可能だ。それならば、それに対するよりよ
い対策を、行政や住民と共に見つけていくこと、
つまり今私たちが持っている「知」を活用して現実
の課題解決に役立てるといふ社会技術の開発と提
唱が、大学の重要な役割の一つであると研究者た
ちは語る。不確実性の高い災害に対して、どのよ
うな資源配分と責任配分を行うのか、過去の体験
から学び、積み重ねてきた研究成果を、地域の人々
の力と結集し、新しいシステムが充実されていく
ことを期待したい。

法律と社会をつなぐ研究者

学問の喜びを発見し、夢を追い続ける研究者たちに話を聞くこのシリーズ。第1回目の今回は、法社会学の研究
者として知られる法学部の吉田勇教授を訪ねました。

人と関わる仕事をしたい

「法学といえば、法律そのものを学ぶというイメージですが、法社会学では、法律と世間のズレを解決する方法を研究します。つまり、法と社会の橋渡し役なのです」。

たとえば、昭和52年に三重県鈴鹿市の新興住宅地に隣接するため池で、子どもが水死した事故の責任をめぐる紛争事例などは、大きなテーマです。

夕食の買い物に行くために子どもを呼びにきた母親は、子どもが行かないといったために、一緒に遊んでいた子どもの母親に、「よろしくお願います」と頼んだのに対して、大掃除中だったその母親は「子どもたちが二人で遊んでいるから大丈夫でしょう」と応じていました。この不幸な事故を契機に、仲の良かった隣人同士は口もきかなくなり、子どもを失った夫婦が隣人夫婦を訴え、両夫婦は5年以上もの間法廷で争い合うことにな

りました。さらに、昭和58年の判決報道後に生じた世間からの匿名の非難・中傷によって両夫婦とも深く傷つき、訴え自体が取り下げられるという事態になりました。

果たして、このような「隣人訴訟」はどのように解決するのが望ましいのでしょうか。

権利や義務をめぐる法律論だけでは治まらない紛争解決や人間関係の在り方を考え、感情処理やより良い和解の仕方を考えること、また世間の過

「筑豊の子どもを守る会」で活動中は、他のメンバーと共に授産所に宿泊していました。



PROFILE

吉田 勇（よしだ・いさむ）
1945年生まれ。熊本大学法学部教授。長崎県佐世保市出身。九州大学法学研究科修了後、「産業労働研究所」の助手となる。1979年、法学部講師として熊大に。2001～2003年、法学部長として法科大学院創設に奔走。

第1の転機—工学部から法学部へ

剩反応を分析することなどは、いずれも法社会学の研究課題です。
専門分野で高い評価を受けている吉田教授ですが、最初から法社会学を目指していたわけではありません。法社会学の研究に向かうまでに、「大きな3度の転機がありました。どんな時でも、人と直接関わる仕事をしたいという想いが根底にありました」。

高校卒業時は高度成長期の理工系ブームで、九州大学工学部に入學。学生YMCAサークルに入り、全国組織「筑豊の子どもを守る会」の活動に参加しました。そこで、19歳になったばかりの青年は、以後の人生を大きく変える「筑豊問題」と出会います。
昭和30年代、炭鉱閉鎖で「黒い失業地帯」とよばれていた筑豊地域。そこに暮らす子どもたちの環境が劣悪なことに心を動かされた吉田青年は、筑



豊通いを始め、夏休み等にはサークルのメンバーと共に新二瀬の授産所を借りて住み込みました。昼間は、子どもたちと遊んだり勉強したり、夜は元炭鉱夫の人たちに会い、炭鉱がもたらした問題や現在の困窮した生活など、そこで暮らす人々の生の声を聞いてまわりました。

そんな中、筑豊の生活保護子弟の高校進学が困難であるという現状を知り、「なんとかできないのか」と、仲間と知恵をします。いろいろ調べた結果、「奨学金制度を整えよう」と財団法人の

設立を思いつき、すぐにその活動に取りかかります。しかし、いざ設立のための運動を始めると、「世の中には法律を使わないと解決出来ないことが多い」という社会の仕組みを痛感させられます。そして「弁護士になろう」と一大決心。法学を学ぶために進路を転換します。

第2の転機―弁護士か、研究者か

翌年、両親の猛反対を押し切り法学部を再受験して入学。しかし、2年生の終わり頃、「筑豊の子どもを守る会」の活動が行き詰まり、解散が決定。ひどく落胆し、弁護士になるという目標も揺らぎ始め、「これからどんな道に進めば良いんだろう」と、悶々とする日々を過ごしていました。

3年生になった時、友人と一緒にお願いして、4年次科目であった「法理学ゼミ」に参加させてもらい、そこで、担当の三島淑臣先生に出会うという幸運に恵まれます。本質的なものを考えるとはどのようなことを先生から身近に学び、人間・社会・法について根本的に考えることの大切さと面白さに目覚めることになります。これが、2度目の人生の転機となりました。

卒業後は大学院に進学し、法哲学を専攻。しかし当時は、法哲学の学問としての難しさと自

分の能力の乏しさを実感し、法哲学の研究者になることは考えていませんでした。

第3の転機―マックス・ヴェーバーとの出会いと法社会学研究へ

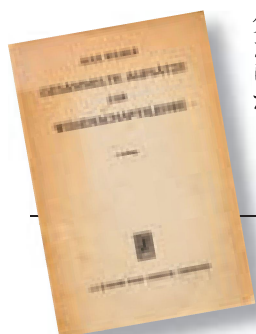
修士論文のテーマには、社会学の創始者の1人であるマックス・ヴェーバーの「法社会学理論」を選んで研究を始めました。法と社会の関連を分析するという新しい発想を通して西欧の法や社会秩序はどのように分析されているのかに関心をもったからです。筑豊問題に始まり、同時代に次々に登場する公害などの社会問題に対する関心も持続していたので、次第に、法哲学よりも法社会学に対する関心がふくらんでいきました。

そのうちに、ヴェーバーから学んだ理解社会学の方法を、法と社会の距離が大きい日本社会の分析に活かす必要があると思うようになりました。修士課程修了後には「産業労働研究所」の助手になり、法社会学の研究者への道を歩み始めることになりました。

現在の夢

「今は、私たちが紛争解決に際してよく使う『誠意』という言葉の規範的意味の研究など、日本社会における交渉規範や紛争解決規範の研究に取り組んでいます。今後は、『なんで自分だけがこんな目に』といった不公平感

の前提にある公正規範や、自己と他者の序列関係や上下関係のもつ規範的働きなどを明らかにしていきたいと思います。」



「マックス・ヴェーバー学問論集(第3版)」

熊大群像

熊本大学フィルハーモニーオーケストラ

音と心のハーモニー

熊本大学フィルハーモニーオーケストラ（通称熊大フィル）は、昭和28年に発足。

昨年度は、創立50周年記念コンサートの開催や顧問だった山崎先生の退官、そして学生表彰と、いろいろな意味で節目の年となりました。今年度からは、これまでの伝統を受け継ぎながらも、新しい気持ちで練習に励んでいます。

現在、部員は76名。9月の演奏旅行に向けての練習を行っているところです。

部長の井形友子さん（教・3年）

は、「熊大フィルは、音と心のハーモニー」をモットーに活動しています。オーケストラでは音程やリズムはもちろん、みんなの心がひとつにならなければ、聴く人の心に響くような演奏はできませんから」と話します。「練習できる時間は限られています。私たちにはそれをカバーするだけの、がむしゃらな情熱があります」

「す。なるほど、練習中の部員たちを見てみると、その真剣さが伝わってきます。演奏旅行では、いい音を提供できるとともに聴かせたい」という強い思いが、みんなの心をひとつにしています。」「実は、大学に入ってから楽器を始めた人が多くて、弦楽器に至っては、約8割が初心者なんですよ」

地域の子どもたちに届ける

オーケストラ宅配便

今年で創立51周年を迎える熊本大学フィルハーモニーオーケストラ。県内小中学校を巡回する演奏旅行や阿蘇町深葉分校の閉校式での演奏など、これまで多くの人たちに迫力あるオーケストラの演奏を提供してきました。この長年にわたる地域社会への貢献が評価され、平成15年度の学生表彰団体に選ばれました。



と、インスペクターの村上恵美さん（教・3年）。それでも、先輩たちの熱心な指導で、秋の演奏旅行までには、オーケストラの一員として演奏ができるまでにレベルアップします。

熊本県下の小中学校を訪問する演奏旅行は、今年で36回目を迎える伝統行事。子どもたちを生のおーケストラに触れさせることが目的で始まったこの活動は、最も力を入れているイベントです。県内を阿蘇方面や八代方面など毎年ローテーションして巡回。昨年は、天草地方の各小中学校を訪れました。

「ピアノやトロンボーンなど、初

子どもたちの笑顔



毎年12月に定期演奏会を開催している。



左から部長の井形友子さん、コンサートマスターの江藤雅恵さん、インスペクターの村上恵美さん、副部長の中島哲平さん。

めて見る楽器に子どもたちは大喜び。なかには、これだけ多くの楽器が一堂に演奏される姿を見て、ハッと息を飲むほど感動する子もいるんですよ！」と、コンサートマスターの江藤雅恵さん（教・3年）。そして、「この演奏旅行は移動が多く、とてもハードなスケジュールなんです。が、子どもたちが本気で喜んでくれます。その笑顔を見ると、私たちも元気がでるんです」と副部長の中島哲平さん（工・3年）。

お互いが向上し合って、聴く人への感動を与えるための厳しい練習。サークルの部長日記からは、そんなサークルの日常も感じとれます。

これからは熊大フィルは、子どもたちにオーケストラの雄大な音の感動を届け続けます。

Diary 部長日記

2004年5月11日

練習が終わった後、夜遅くにひとりで同じフレーズを何度も何度も練習している人がいました。私は「本当によく頑張っているなあ」と感心していました。すると、ふと音が止まったんです。突然止まったので気になってその人のそばにかけ寄ると、その人は泣いていました。

ちょうど通りかかったもうひとりの役員も立ち止まり、二人で「どうしたのっ？」て聞くと首を横に振るばかり。涙は止まりません。もう一度たずねるとその人は声をつまらせて「弾けないんです」と一言。ひたむきに頑張る姿とこの一言。私はただただ切なくなりました。

た。その人はまた涙ながらに「(同じパートの)先輩に申し訳なくて…」と話してくれました。

その人がよくパートの先輩に練習をみてもらっているのを私もよく知っています。きっとその人は自分の想いと一緒先輩への感謝の気持ちを込めて弾きたいのだと思います。私も経験した気持ちです。

本当に情けないけれど、私はここであの涙に応える解決策を提案することはできません。「一緒に頑張ろう」「頑張れば必ず弾けるようになる」私が言えるのはこの言葉だけ。そんな自分が悔しいけれど、本心にはかわりはないです。

部長日記は熊大フィル HP で公開しています。
<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1685/>



演奏旅行で小学校を訪れた時の様子。

生才

目的をひとつにすれば 人類は困難を乗り越えられる。

何千年にもわたり世界中の人々を苦しめてきた天然痘。その根絶という人類史上に残る偉業を、WHO国際プロジェクトのリーダーとして成し遂げた蟻田功博士。郷里熊本に帰った博士は、今も(財)国際保健医療交流センター理事長として、感染症対策や人材の育成など世界の保健医療の向上に貢献し続けています。



宗教、人種、国籍：

全てを超えた全世界的プロジェクト

―熊本医科大学(現熊本医学部)卒業後、厚生省(現厚生労働省)へ。その後WHO(世界保健機関)へ移らるたいきさつは？

蟻田 厚生省の仕事が平穩だったの
で、1962年、WHOが募集して
いたリベリアの熱帯病対策の仕事に
応募してみました。冒険心ですね。
物好きしか行かないと言われました
が、実際大変な所でした。そこで天
然痘の問題に出会ったのです。その頃
WHOは天然痘根絶を目指してはい
たのですが、まだ成果が上がっていま

せんでした。そこで、1964年本
格的にチームを作ろうということで
私もジュネーブの本部に呼ばれ天然
痘根絶強化作戦を開始したのです。
―天然痘との闘いの中で、障害になっ
たことは何ですか？

蟻田 各国から集めたワクチンの質
や接種のテクニック、頭の堅い役人
の説得、紛争地帯での活動などさま
ざまな問題がありました。特に、最
初はその土地の迷信が壁になりまし
たね。アフリカやインドには、天然
痘の神様がいて、それを拝んで救わ
れようとする。しかし、我々はこれ
を逆手に取ったんです。天然痘はど
の国でも恥と考え、患者を隠そうと



熱帯密林地帯における感染症の
発生調査



Isao Arita Profile

1949年 熊本医科大学(現熊本大学医学部)卒業

1950年 厚生省公衆衛生局勤務

1962年 世界保健機関(WHO)勤務



WHO ジュネーブ本部でのワクチン専門家会議

1977年 世界天然痘根絶対策本部長就任

1980年 「天然痘根絶宣言」

1985年 帰国 国立熊本病院院長就任

1988年 日本国際賞受賞



科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献した人に与えられる。日本人としては初の受賞者。

1993年 (財)国際保健医療交流センター理事長就任



途上国の専門家育成やポリオ根絶、感染症対策に取り組んでいる。
<http://www.acih.com/>

します。ところが、この神様の所には次々に患者が集まってきて、そこで、患者を発見できる。その患者の周辺の人たちにワクチンを打つという方法が功を奏しました。

—1980年、根絶宣言の時は感慨深かったでしょうね。

蟻田 感慨というより、この事業の意義の大きさを感じました。天然痘根絶という一つの目的のもとに、あらゆる宗教、人種、国籍の人々が、一致協力してやり遂げた。これは、非常に重要なことです。私と共に働いた国際スタッフだけでも800人近く、それぞれの国で働いたスタッフを入れると実に20万人以上が、さまざまな障害を越えいっしょに目的を達成したのです。今も、あちこちで戦争をしています、人類は同じ目的を持って、共に訓練を乗り越えられる。この事業は、その証拠を示したとも



天然痘は紀元前より、伝染力が非常に強く死に至る疫病として人々から恐れられていた。また、治癒した場合でも顔面に醜い痕が残るため、江戸時代には「美目定め病」と言われ、忌み嫌われていたとの記録がある。天然痘ワクチンの接種、すなわち種痘の普及によりその発生数は減少し、WHOは1980年5月天然痘の世界根絶宣言を行った。以降これまでに世界中で天然痘患者の発生はない。



カント著「実践理性批判」(岩波文庫)

(注) Immanuel Kant(1724-1804)

Zwei Dinge erfuellen des Gemuet mit immer neuer und zunehmender Bewunderung und Ehrfurcht, je oeffter und anhaltender sich das Nachdenken damit beschaeftigt:
Der bestirnte Himmel ueber mir, und das moralische Gesetz in mir.

蟻田 学生時代に哲学書を読みましよう。今は、理想や哲学が吹っ飛んで、いかにお金を儲けるか、いかに効率を上げるかだけが先行している時代。医学も技術はどんどん進み、数十年後には人はなかなか死ななくなるでしょう。しかし、これからはもっと本質的に、人間とは何かが問われるはず。哲学者カントは、こんなことを言っています。「私の生涯でいつも二つのことが私を怖れと驚愕で満たし、また、それを思うと心が安らかにもなる。その一つは、星空を見上げるといつもそこにある宇宙の神秘。そして、もう一つは、自分の心の中に厳然とある道徳律。この二つをしっかりと考えていれば、自ずから答えは出る」と(注)。自分の心をよく見つめ、そこで正しいと信じることで自分の行動が一致しているかどうか、いつも確かめながら生きていきたいですね。

言えると思います。

若い人こそ

理想と哲学を持つてほしい

—世界中の人々と仕事をされて感じておられることは？

蟻田 誰に対しても、理屈や自分の信じることを、きちんと主張することが大切です。国際会議の場を見ても、日本人はこれが苦手です。

あの人には世話になったから逆らうまい。下手なことを言うとか後で損をするから黙っていよう。そういう事なかれ主義では前進がありません。過ちはなぜ起こるのか？それは、真実を「見たくない、聞きたくない、言いたくない」という態度から生まれます。信念を持つことが大切です。—後進へのメッセージをいただけませんか。

海外研修で 体感した国際交流

昨年、熊本大学事務職員海外派遣研修制度の第1号として、カナダのアルバータ大学で2カ月間を過ごした野口緑さん。滞在中は、研修生としてはもちろん、ひとりの留学生の立場になって、大学生活を体験。その経験を通して見えてきた、海外の大学や熊大における国際交流事情について話を聞きました。

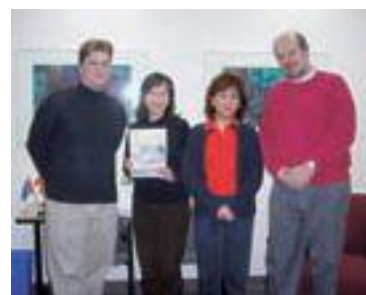
国際課留学生室 野口 緑



海外派遣研修員第1号として

現在、熊本大学の国際課留学生室に勤務する野口緑さん。留学生の受け入れや派遣などの業務を中心に、留学生室に訪れる学生たちの世話などで、忙しい毎日を送っています。これまでも、医学部や工学部の教務企画係で、海外からの留学生担当として、そのサポートを務めていた国際交流のベテラン職員です。

昨年、熊本大学では、事務系職員が海外の大学で語学学習や実地調査を行う研修を実施することを決定。野口さんはその第1号に選ばれました。訪問先は、カナダのアルバータ



(上) 右からエクステンションセンターの総責任者 Robert 教授とマネージャーの Mimi さん。左端は ELP プログラム翻訳版の作成担当グレッグさん。
(下) 語学研修の中でも重要な採点ポイントの一つであるサーベイ(調査)の結果をクラスメイトの前にして発表中。

留学生の立場を経験して

アルバータ大学は、アジア、アメリカ、中東、ヨーロッパ、南米など世界各地から研修への参加者が集まる国際色豊かな大学。語学研修のクラスメイトも、中国、韓国、ベトナム、チリ、台湾など様々です。

「現地では、大学内にあるエクステンションセンターで、午前中は朝8時から語学の研修を、午後は研修生として参加している ELP (注



1)の要綱を翻訳する手伝いをしながら、毎日を過ごしていました。また、実地調査として、アルバータ大学で実施されているVSCP(注2)のリサーチを実施しました。これは、日本の大学生も参加しやすい短期留学制度で、住居や医療など、留学生の学生生活のサポートも大変充実しています。このプログラムを利用している日本人の学生に実情を聞いたリ、大学担当者にも説明を受けたりしました」。

今回、留学生の立場になったことで、今後熊大から派遣する学生へのアドバイスがより具体的にできるようになったと話す野口さん。「例えば、お金をどのようにして持つていくか、住居の借り方、ビザ取得のための情報収集の方法など、いろんなことを学べました。今回は、コーディネーターを通さず自分でやったこと

が、大変ためになりました」。

また、語学研修でチリとベトナムの人とチームを組んだ時、意見が容易にまとまらなかったことが印象的だったといえます。「文化の違いはあっても、いかにお互いが自分の意思を伝えようとし、また他人を理解しようとするかが大切だということに、改めて気が付きました」。

これからの熊大の国際化のために

「現在、熊大は、世界12カ国の18大学と大学間交流協定を結んでいます。平成15年度には、約20名の学生が協定校へとばたきしました。今回、実際にアルバータ大学を訪れて、担当者とも顔見知りになったことによ

り、事務系職員間のパイプができました。そんなパイプを今後もっと増やして、留学を希望する熊大の学生たちに、役立つ情報を提供していきたいと思っています」。今回の派遣を通して「優秀な留学生を受け入れるために、熊本大学の素晴らしさをもっと世界にアピールしていきたい」とも感じたそうです。これからの熊本大学の国際化を担う人材として、今後の活躍が期待されます。

(注1)ELP...(English Language Program(略))
アルバータ大学本科コースに入るための準備期間として留学生が受講できる2カ月単位の集中的な語学研修プログラム。

(注2) VSCP...(Visiting Student Certificate Program(略))
アルバータ大学の短期留学制度。留学期間は3つのコースから選べ、集中英語研修、一般教養科目・専門科目などの正規授業の受講も可能。



PROFILE

野口 緑(のぐち・みどり)
昭和63年より熊本大学勤務。医学部、工学部を経て、現在は国際課の留学生室でコーディネータ役として活躍している。

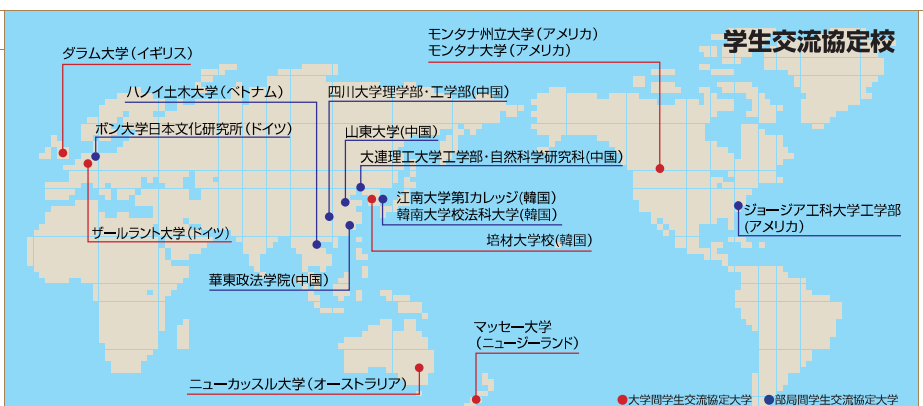
熊本大学留学情報

交換留学制度

熊本大学は海外の諸大学と学生を相互に派遣する学生交流協定を結んでいます。休学せずに留学でき、留学先で修得した単位を熊大の単位とすることができます。留学中も熊大に授業料を納めるだけで、留学先での入学料、授業料は必要ありません。その他、協定校への夏季短期セミナーも毎年実施されています。詳しくは留学生室までお問い合わせ下さい。HPによる情報は <http://center.ryu.kumamoto-u.ac.jp>

留学フェア

毎年、夏期休暇前に学内で留学フェアを行っています。パネル展示での協定校の紹介や留学経験者による体験談など、留学に関する様々な情報を提供しています。



平成15年度には学生交流協定により、22名を派遣し、23名を受け入れています。現在、熊本大学には協定校からの受け入れを含め、282名の外国人留学生在籍しています。

9/24
金

微生物発現系を用いた遺伝子組み換えタンパク質獲得に関する研究

13:00~14:30

講師：張 玲花（中国大連輕工業大学教授）

- 会場／熊本大学理学部
- 対象／教職員および一般

参加申し込み
不要

お問い合わせ

熊本大学理学部
石田昭夫

E-mail abc@gpo.kumamoto-u.ac.jp

8/21
土

8/22
日

青少年のための科学の祭典

10:00~17:00

無料

- 会場／グランメッセ熊本
- 対象／幼～高校生と保護者



お問い合わせ

熊本大学教育学部理科教育（化学）

佐藤成哉

TEL 096-342-2541

E-mail prince@educ.kumamoto-u.ac.jp

文部科学省科学研究費特定領域研究

「火山爆発のダイナミクス」一般公開

一みんなであらう次世代火山観測と噴火予知一

最新の火山研究と噴火予知の進展を知ることができます。

7/19
月

市民向け講演会

- 会場／くまもと県民交流館パレア

13:30~16:00

7/24
土

7/25
日

展示会

- 会場／阿蘇火山博物館

13:30~16:00

お問い合わせ

「火山爆発のダイナミクス」事務局

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科地球惑星地球惑星物質科学科

中村美千彦

E-mail nakamm@mail.tains.tohoku.ac.jp

久利美和

E-mail kuri-m@mail.tains.tohoku.ac.jp

TEL・FAX 022-217-7762

熊本大学理学部理学科地球物質科学講座

磯部博志

TEL 096-342-3416 FAX 096-342-3411

E-mail isobe@sci.kumamoto-u.ac.jp

入試情報

（平成16年7月1日現在）

■大学院入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
文学研究科（修士課程）社会人特別選抜を含む《第1期・秋季日程》	16/9/1(水)~9/7(火)	16/9/27(月)・28(火)
文学研究科（修士課程）社会人特別選抜を含む《第2期・春季日程》	17/1/17(月)~1/21(金)	17/2/14(月)・15(火)
教育学研究科（修士課程）	16/8/16(月)~8/20(金)	16/9/17(金)
法学研究科（修士課程）社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を含む《第1期》	16/9/1(水)~9/7(火)	16/9/25(土)・26(日)
法学研究科（修士課程）社会人特別選抜を含む《第2期》	17年1月中旬	17年2月中旬
医学教育部（修士課程）推薦入学	16/6/24(木)~6/30(木)	16/7/12(月)
医学教育部（修士課程）《秋季日程》	16/7/26(月)~7/30(金)	16/8/23(月)・24(火)
医学教育部（修士課程）《春季日程》	17年1月上旬	17年1月下旬
医学教育部（博士課程）社会人特別選抜を含む《秋季日程》	16/7/26(月)~7/30(金)	16/9/6(月)・7(火)
医学教育部（博士課程）社会人特別選抜を含む《春季日程》	17年1月上旬	17年2月中旬
薬学教育部（博士前期課程）推薦入学	16/6/24(木)~6/30(木)	16/7/12(月)
薬学教育部（博士前期課程）外国人特別選抜及び社会人特別選抜を含む	16/7/26(月)~7/30(金)	16/8/20(金)
薬学教育部（博士前期課程）社会人特別選抜を含む	17年1月中旬	17年2月上旬
薬学教育部（博士前期課程）10月入学外国人特別選抜及び社会人特別選抜を含む	16/7/26(月)~7/30(金)	16/8/20(金)
薬学教育部（博士後期課程）10月入学外国人特別選抜及び社会人特別選抜を含む	16/7/26(月)~7/30(金)	16/8/20(金)
社会文化科学研究科（博士課程）社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜《秋季日程》	16/9/21(火)~9/27(月)	16/10/16(土)
社会文化科学研究科（博士課程）社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を含む《春季日程》	17/1/18(火)~1/24(月)	17/3/1(火)
自然科学研究科（博士前期課程）推薦入学	16/5/31(月)~6/3(木)	16/7/3(土)
自然科学研究科（博士前期課程）社会人特別選抜を含む	16/7/26(月)~7/30(金)	16/8/26(木)・27(金)
自然科学研究科（博士前期課程）外国人留学生特別選抜	17年2月上旬	17年2月下旬
自然科学研究科（博士前期課程）学部3年次を対象とする選抜	17年2月下旬	17年3月上旬
自然科学研究科（博士後期課程）社会人特別選抜を含む	16/7/26(月)~7/30(金)	17/8/19(木)・20(金)
自然科学研究科（博士後期課程）10月入学社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜及び外国人留学生特別選抜を含む	16/7/26(月)~7/30(金)	17/8/19(木)・20(金)
法曹養成研究科	16/10/22(金)~10/28(木)	第1次選抜16/11/28(日) 第2次選抜16/12/12(日) 法律科目試験17/1/8(土)・9(日)

*法科大学院の法律科目試験については、第2次選抜で合格し入学手続を完了した者のうち、2年短縮コースを希望する者に課します。

■編入学・専攻科・別科入試日程■

選 抜 区 分	願書受付期間	試 験 日
文学部第3年次編入学	16年10月中旬	16年11月上旬
法学部第3年次編入学	16年10月中旬	16年11月上旬
理学部第3年次編入学（推薦入学を含む）	16/5/31(月)~6/3(木)	16/6/19(土)
工学部第3年次編入学（推薦入学）	16/5/31(月)~6/3(木)	16/6/11(金)
工学部第3年次編入学（一般選抜）	16/7/26(月)~7/30(金)	16/8/24(火)
特殊教育特別専攻科	17年2月上旬	17年3月上旬
看護教諭特別別科	16年12月上旬	17年1月中旬
医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻	16年12月上旬	17年1月中旬

※予定が変更されることもあります。
ホームページ等でご確認下さい。

お問い合わせ

熊本大学学生部入試課 〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL 096-342-2146 FAX 096-345-1954 E-mail nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp
熊本大学ホームページ <http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>

日本機械学会フェロー賞 （若手優秀講演）を受賞

受賞講演名

様々な作動流体に適用可能な気液二相流の構成式の検討

今年の3月に行われた日本機械学会の講演会において、工学部知能生産システム工学科流体工学研究室（佐田富道雄教授）の塩田紘之さん（博士前期課程2年）が、「日本機械学会フェロー賞」を受賞しました。この賞は平成15年度に設立された新しい賞で、塩田さんが受賞第1号になります。



塩田紘之さん





熊本大学 ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)顕彰 ハーン没後100周年記念祭

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は明治24(1892)年、第五高等中学校(現・熊本大学)に赴任しました。明治27年までの約3年間に熊本で過ごし、日本に関する最初の書物『知られぬ日本の面影』を出版、他に「九州の学生とともに」「柔術」「石仏」などの名作を生み出しました。今年はハーンの没後100年にあたり、本学ではハーン没後100周年記念祭を開催します。講演には、ハーンのひ孫にあたる小泉凡先生をお迎えし、ハーンについての大変興味深いお話を聴くことができます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

- 日 時：9月25日(土) 12:30～
- 場 所：熊本大学黒髪キャンパス内
- 主 催：熊本大学

お問い合わせ

熊本大学総務部総務課総務係
TEL 096-342-3117
E-mail sos-somu@jimui.kumamoto-u.ac.jp

プログラム

黒髪北キャンパスにて

12:30～13:15 ハーン・レリーフ 贈呈・除幕式
経緯説明 来賓紹介 制作者の言葉
贈呈・除幕式

工学部百周年記念館(南キャンパス)にて

13:30～13:40 開会挨拶 学長
13:40～14:20 講演 小泉 凡先生(島根女子短期大学)
テーマ：『没後百年に思う、
ハーンの未来性』

14:30～16:00 ハーン・シンポジウム

テーマ：『ハーンからの伝言：21世紀に
向けて(日本の近代化再考)』

司会：岩岡 中正(附属図書館長)

パネリスト：渡辺 京二(評論家)

松井 貴子(宇都宮大学)

アラン・ローゼン(熊本大学)

西川 盛雄(熊本大学)

16:00

閉会挨拶 副学長

公開講座

ワグナー芸術への招待 9,200円

- 開講日時：9/11(土)～12/4(土)全12回
14:00～16:00
- 受付期間：7/1(木)～8/27(金)

映画の中に咲いた〈華〉を尋ねよう 7,200円

- 開講日時：10/9(土)～11/13(土)全6回
14:30～17:00
- 受付期間：9/1(水)～9/30(木)

リナックスによる インターネットサーバの構築 無料

- 開講日時：8/21(土)～9/18(土)全5回
10:00～12:00
- 受付期間：7/1(木)～8/13(金)

ドイツの歌とやさしいドイツ語会話 8,200円

- 開講日時：10/2(土)～12/4(土)全10回
14:00～16:00
- 受付期間：8/23(月)～9/17(金)

ゼミナール 地方自治を巡る諸問題 6,200円

- 開講日時：10/2(土)～12/4(土)全5回
10:00～12:00
- 受付期間：8/2(月)～9/24(金)

第3回 薬用植物を知ろう in 熊本(阿蘇) 無料

- 開講日時：10/2(土) 13:30～16:30
10/3(日) 9:30～14:00
- 受付期間：9月～実施日当日まで

家庭介護 無料

- 開講日時：9/4(土)～9/25(土)全4回
10:00～12:00
- 受付期間：8/2(月)～8/27(金)

お問い合わせ・参加申し込み

地域共生戦略室
TEL 096-342-3121 FAX 096-342-3110
E-mail sos-tiiki@jimui.kumamoto-u.ac.jp
http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp

第18回独創性を拓く 先端技術大賞 (学生部門特別賞)を受賞

入賞論文

糖を燃料源とした新規糖—空気燃料電池の開発



田端大助さん(上段左から2人目)

理工系学生や企業の若手研究者の研究成果を顕彰する「第18回独創性を拓く 先端技術大賞」学生部門特別賞に、大学院自然科学研究科物質科学専攻博士前期課程2年の田端大助さんが選ばれました。



お薦めの一冊

『蘭学事始』

杉田玄白著（緒方富雄校註）岩波書店



小野 友道 理事・副学長

『ターヘル・アナトミア』に感動して和訳『解体新書』を完成させた杉田玄白がその回想を83歳時に記した。玄白（39歳）が前野良沢らと腑分けに立ち会い、「一つとしてその図に聊か違ふことなき品々なり」とその本の凄さに驚き、早速、翌日から4年をかけ訳した。その苦勞を「たとえば、眉（ウエイブラウ）といふものは目の上に生じたる毛なりとあるやうなる一句も、彷彿として、長き春の一日には明らめられず、日暮るゝまで考へ詰め、互いににらみ合いて、僅か一二寸ばかりの文章、一行も解し得ることならぬことにありしなり」「一向に思慮の及びがたきこと多かりし。これらはまた、ゆくゆくは解すべき時も出来ぬべし。その符号を付け置くべしとして丸の内に十文字を引きて記し置きたり。その頃知られざることを轡十字と名づけたり。・・・解すべからざることあれば、その苦しみの余り、それもまた轡十字、轡十字と申したりき」とある。しかし、「漸くその事体も弁するやうになるに随ひ、次第に蔗を噉むが如くにて、その甘味に喰ひつき、これにて千古の誤も解け、その筋たしかに弁へ得しことに至るの楽しく、会集の期日は、前日より夜の明るるを待ちかね、児女子の祭見にゆく心地せり」となる。思い叶わぬとき、私はこの小さな本を開き、闘志をかき立てる。医学部以外の学生にこそ是非薦めたい。



平成16年度熊本大学公開講座

熊大サマースクール

夏休みにこそステップアップ。熊本大学で学ぼう。

受講料
無料

教員向け能力開発講座

- 講座 1 学校管理職講座**
担当 柳 治男（教育学部） 開催時期 8月24日（火）～25日（水）
●受付期間／7月1日（木）～7月30日（金）
急激に変化する社会の中で、学校がその機能を十分発揮しうような学校管理職のあり方を検討する。
- 講座 2 放射線体験セミナー「どこまで知っていますか？放射線」**
担当 島崎 達也（生命資源研究・支援センター） 開催時期 8月6日（金）
●受付期間／6月28日（月）～8月3日（火）
教育現場の教員に放射線を理解してもらい生徒に放射線の正しい知識を普及することを目的とし、総合学習などの教育の場に活用できる情報を提供する。
- 講座 3 IT環境を活用した英語学習支援**
担当 安浪 誠祐（大学教育機能開発研究センター） 開催時期 8月10日（火）
●受付期間／7月1日（木）～30日（金）
e-LearningシステムWebCTを用いた英語学習支援に関する理解を深める。
- 講座 4 理科教員のための組換えDNA実験教育研修会**
担当 荒木 正健（生命資源研究・支援センター） 開催時期 8月11日（水）～13日（金）
●受付期間／5月31日（月）～6月30日（水）※土、日、祝日を除く8:30～17:30
教育の現場に新しい教育教材として組換えDNA実験を取り入れることで、一般社会に遺伝子組換えに関する知識を普及することを目的とし、その研修を行う。

高校生も大人も楽しめるイキイキ好奇心講座

- 講座 5 海の生きものを知る**
担当 逸見 泰久（沿岸域環境科学教育研究センター） 開催時期 7月24日（土）～25日（日）
●受付期間／6月28日（月）～7月14日（水）
天草の海岸で海ほたるの発光を観察するなど、海の自然の神秘を体験し海洋環境への関心を啓発する。
※別途宿泊費等4,000円程度が必要です。
- 講座 6 数学へのいざない**
担当 原岡 喜重（理学部） 開催時期 8月2日（月）～3日（火）
●受付期間／7月5日（月）～30日（金）
学校で学ぶ数学は何に役に立つのか。その先には何があるのか。親しみやすい題材により、数学の魅力と有用性を示す。

中高生向けワクワク科学講座

- 講座 7 中学生を対象にした夏休みの自由研究に関する技術相談会**
担当 丸山 繁（工学部） 開催時期 7月31日（土）～8月1日（日）
●受付期間／7月10日（土）応募締切
中学生が考えた夏休みの自由研究計画について、その研究成果を高めるため、的確な工学的アドバイスをを行う。このことにより、中学生に自然科学への興味を持たせ、将来の熊本の産業を担う人材を育成する。
- 講座 8 物理学への招待**
担当 光永 正治（理学部） 開催時期 8月5日（木）
●受付期間／7月5日（月）～30日（金）
物理学の講義や演示実験を通して、最前線の物理学の面白さを体験してもらい、将来の進路設計に役立ててもらう。

問い合わせ先

熊本大学総務部総務課地域共生戦略室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL.096-342-3121 FAX.096-342-3110
E-mail:sos-tiiki@jimu.kumamoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.lifelong.kumamoto-u.ac.jp/kouza/summer/>

編 集 後 記

「どうぞ、入ってください」と呼ばれた。

妻に付き添って熊大病院に着いたのは午前8時すぎ。時間が早いので本でも読んで待合室でまっていれば良いと思っていたら、すぐに診察室に呼ばれた。ここ数週間の体調の変化をじっくり聞くとともに、検査結果を見ながら、患者を安心させる言葉をかける。「なんでも体調に変わったことがあったら、来てください。予約がなくても」と、患者を思いやる言葉で締めくくる。これまでいろいろ医者にはかかってきましたが、熊大の病院ほどじっくり話を聞いている先生たちには、患者さんのことを慮る心が根付いているんだろうなと思いました。

わたしはこの4月に慶應大学から赴任してきたのですが、なにより心配だったのが妻の病院選びでした。なかなか難しい病気持ちいのでとりあえず専門性の高い先生にかならないといけないのですが、それだけの冷たい病院は嫌だと思っていた。やはり患者を人として扱ってくれる、やさしい医師に診て欲しいので、知り合いに頼んで探してもらいました。それが熊大病院の先生でした。

熊大には、五高記念館や永青文庫などの歴史的なものでなく、有形無形の「お宝」がたくさんあるように思います。編集委員のひとりとして、熊大そして熊本県にある「お宝」を発見し、そういういいものをより多くの方々に知っていただけるようにできればと考えておりますので、どしどしわれわれにお宝情報をお願いいたします。

(編集委員：水元豊文)

編集委員

文 学 部	水元豊文
教 育 学 部	佐藤毅彦
工 学 部	緒方公一
発 生 医 学 研究センター	糸 和彦
生涯学習教育 研究センター	上野真也(委員長)
事務局／総務課広報室	
文 責／熊大通信WG	



表紙／板井 榮雄

熊本大学公式ホームページ
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/univj.html>

熊大通信では、皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

● 宛先 ●

熊本大学総務部総務課広報室
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号
TEL: 096-342-3119 FAX: 096-342-3110
soskch@jimuk.kumamoto-u.ac.jp

新 聞 だ
見 熊 本 大 学



3/29

熊本日日新聞



5/12

熊本日日新聞



4/2

熊本日日新聞

4/23

熊本日日新聞



5/10

熊本日日新聞



5/22

熊本日日新聞

オープンキャンパス

平成16年
8月4日(水)

熊本大学では、学部説明会及び研究室公開を開催します。各学部の教育・研究内容が聞けるほか、研究室を開放する学部もあります。熊大でどのような研究、教育が行われているかを自分の目で見て、あなたのやりたいことを探してみませんか？

黒髪キャンパス	黒髪キャンパス	黒髪キャンパス	黒髪キャンパス
文学部 ●開催時間 13:00～16:00 ●集合時間 12:50 ●集合場所 文学部A1、A2、B1、B2教室	教育学部 ●開催時間 10:00～12:00 13:00～15:00 ●集合時間 午前の部 9:50 午後の部 12:50 ●集合場所 教育学部418、318、219教室	法学部 ●開催時間 10:00～12:00 ●集合時間 9:50 ●集合場所 文・法学部東側玄関 ●対象 高校2年生以上	理学部 ●開催時間 10:00～15:30 ●集合時間 午前の部 9:50 午後の部 13:30 ●集合場所 理学部玄関前
工学部 ●開催時間 9:20～15:10 ●受付時間 午前の部 9:00 午後の部 13:00 ●受付場所 工学部2号館1Fロビー	大江キャンパス 薬学部 ●開催時間 13:00～15:30 ●集合時間 12:15～12:45 ●集合場所 薬学部正面玄関 ●対象 高校2年生以上	本荘・九品寺キャンパス 医学部医学科 ●開催時間 9:30～12:00 ●集合時間 9:20 ●集合場所 医学科基礎第一講義室	本荘・九品寺キャンパス 医学部保健学科 ●開催時間 10:00～12:10 13:30～15:40 ●受付時間 午前の部 9:30～ 9:50 午後の部 13:00～13:20 ●受付場所 保健学科玄関ロビー ●対象 高校2年生以上

同時開催 九州地区国立大学進学説明会

地元熊本に居ながら、他県の各国立大学の様々な入試情報を得るチャンスです。皆さん奮ってご参加ください。

10:00～16:00

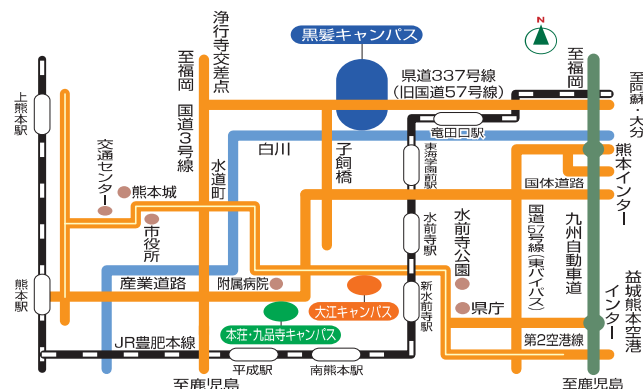
「熊本大学大学教育センター1階」特設会場

個別相談ブース

各国立大学の入試関係職員が、参加者からの各種相談・質問などにお答えします。

資料配付コーナー

各大学・学部等の概要、資料などのパンフレット類を自由に持ち帰ることができます。



※詳しいアクセスにつきましては、熊大HPからキャンパスマップをクリックして下さい。

お問い合わせ先

熊本大学学務部入試課

TEL.096-342-2146 FAX.096-345-1954

E-mail: nyushi@jimu.kumamoto-u.ac.jp

熊大HP: <http://www.kumamoto-u.ac.jp/univ-j.html>